

2019年9月30日 第291号

憲法共同センターNEWS

戦争する国づくりストップ！憲法を守り・いかす共同センター
〒113-8462 文京区湯島 2-4-4 全労連会館 03-5842-5611 (FAX 5842-5620)
<http://www.kyodo-center.jp> mail: move@zenroren.gr.jp

憲法共同センター第6回総会 対話が大事。3000万人署名の力を確信に 選挙で示した真の市民と野党の共闘 未来のため安倍改憲を必ず阻止しよう！

憲法共同センターは9月27日夜、全労連会館2階ホールで、第6回総会を開き、23団体48人が参加しました。10月4日から臨時国会が始まります。改憲発議を許さないたたかいが重要です。総会では、安倍改憲阻止のたたかいの方針を決定し、決意を固めました。日本共産党の山添拓参院議員が情勢報告を行いました。

新婦人・笠井貴美代会長が開会あいさつ。「憲法共同センターは安倍改憲を許さないたたかいで大きな役割を果たした。参議院選挙では、市民と野党の共闘で改憲勢力を3分の2割れにし、今後は、野党連合の新しいステージになる。憲法を生かす政治を実現しよう」と呼びかけました。

全労連・竹下武常任幹事が議案を提案。はじめに、「3000万人署名の推進を軸とし、安倍改憲反対の世論づくり、改憲を進めさせなかったこと、参議院選挙で改憲勢力に3分の2議席を許さなかった私たちのたたかいに確信を持とう」と強調。

総がかり行動実行委員会に結集し、安倍改憲阻止をはじめ、辺野古新基地建設反対、日韓連帯行動の推進などに取り組んできたことを報告しました。3000万人署名について、総がかり行動実行委員会の署名運動についての基本的考え方（①参議院選挙後の情勢に合わせて、新しい署名行動を提起し、取り組む、②3000万人署名を一定期間継続して取り組む、③署名提出行動などは統一して行う）をふまえて、3000万人署名の目標達成にむけて、引き続き取り組むこと、総がかり行動実行委員会の新たな署名について、各団体や地域の実情にあわせて取り組みをすすめることを提起しました。

討論では、4人が発言。埼玉憲法会議・渡辺政成事務局長は埼玉県知事選挙について報告。「野党共闘の大野候補が、5万7000票の差をつけ当選した。基礎票（参院比例）が、青島候補が約128万、大野候補120万と約8万票の差をつけられていたが、共闘の真の力を発揮し、地域で蜂起した。棄権防止もがんばりぬいた。野党共闘でしっかりたたかった成果。憲法闘争にとっても大きな力としたい」と発言しました。

いわて労連・金野耕治議長は参議院選挙、県知事選での野党共闘の勝利について報告。「共同で19日行動、5.3集会、3000万人署名などに取り組んできた。戦争法廃止以来の地域の取り組みの継続が大きな力になった」と発言。3000万人署名について「新しい署名にした方がすっきりするのではないか」という意見もあると報告されました。

JMITUの西正和中央執行委員は「3000万人署名は動きが止まっているところと、まだやり続けるというところがある。10月2日には大田地区では、1000人目標で2000人を達成したということでイベントを行う。JMITU全体では組織の半数しか取り組んでいない。3000万人をやり切ろうという



ことが運動の土台にあった。新署名を始めることはどうなのか」との疑問が出されました。

全労連の長尾ゆり副議長が署名について回答。「3000万人署名を広げる対話運動が野党共闘の背中を押す大きな力となり、改憲を止めてきたという大きな成果につながっている。このことに確信を持つ必要がある。もう、終わった感のあるところ、東京地評のように大会にむけ目標の100万人を達成しようと奮闘しているところもある。各地方では有権者の過半数達成、全戸訪問に取り組んでいるところもある。総がかり行動実行委員会で議論し、新しい署名が必要ではないかの結論に達した。臨時国会で憲法審査会の開会が狙われており、手を休めることはできない。新署名ができるまで3000万人署名どんどんやっっていこう」と呼びかけました。



新婦人の油原通江中央常任委員は「署名はまだがんばっている。憲法カフェの取り組みなど、毎日の生活と憲法を結び付けて対話をしている。対話が一番。9条に自衛隊を書き込むことの危険性は何かとの紙芝居を作成。知らないお宅に伺い、チャイムを押して対話することにも取り組んでいる(ピンポン作戦)。学校のエアコン設置、コンビニからの成人誌撤去などみんなの正当な思いを実現してきた。11月2～3日の全国大会は仲間を増やして迎えたい」と発言しました。

まとめと閉会あいさつを全労連・長尾ゆり副議長が行いました。「憲法共同センターは総がかり行動実行委員会に参加して運動を積み上げ、参議院選での野党統一候補の勝利に貢献し、政

治を動かしてきたことを確認したい。中央だけでなく、各県で共同センターが共同の要として取り組んできた。全国でのがんばりで改憲を許さなかったことを確認したい。安倍政権の改憲は本気。野党の分断、草の根の運動をやってきている。安倍改憲を断念させる1年にしよう」と訴えました。

総会の前半に、一橋大学名誉教授の渡辺治さんが「参議院議員選挙の結果と安倍改憲阻止闘争」と題し、講演しました。参議院選挙について「自民党を仕方なく支持してきた人たちに対し、市民と野党の共闘の候補者が、安倍政権に代わる選択肢、たたかう展望を示し、共通政策を掲げてたたかうことができるか、死に物狂いでがんばれるかを示せるかどうかということだった。きちんとした選択肢、政策を示せば、市民は投票に行く。投票率ベスト5(山形、岩手、秋田、新潟、長野)では、1人区で野党統一候補が勝利している」と指摘しました。安倍改憲を阻むためには、野党分断策動が強まるなか、草の根のたたかいをどう再活性化するかがカギと指摘し、「3000万人署名の力を確信にさらにすすめ、9条改憲の危険性をあらためて市民に訴えていくことが重要」と述べ、「臨時国会から来年の通常国会で改憲発議を許すか許さないか正念場のたたかいであり、野党連合政権にむけた秋のたたかいが、未来を決める」と強調しました。

●当面の行動

◆総がかり行動 臨時国会開会日行動 10月4日(金)12時～ 国会議員会館前

◆総がかり行動「19日行動」 10月19日(土)15時～ 国会議員会館前

◆憲法共同センター「自民党改憲4項目徹底批判学習会」

10月7日(月)18時30分～20時15分 全労連会館2階ホール

講師 大江 京子弁護士(改憲問題対策法律家6団体事務局長)

http://www.kyodo-center.jp/wp-content/uploads/2019/09/191007gakusyukai_chirashi.pdf

◆日米地位協定の抜本改定学習交流集会

主催・安保破棄中央実行委員会 全国革新懇、憲法共同センターが共催

10月22日(火・祝)13時～16時30分 全労連会館2階ホール

講演 布施 祐仁さん ジャーナリスト「平和新聞」編集長

http://www.kyodo-center.jp/wp-content/uploads/2019/09/191022syuukai_chirashi.pdf